卒論
銃規制

杉浦晃一

１章　米国銃社会の背景

1節　米国が英国の植民地という背景

a）英国の武器所持の権利

武器所持が法的な権利として認識＝武装法

武装法：防衛の為の武器保持の要求

b）英国の民兵制度

民兵：全青年白人男子の武器保持の権利・義務

民兵の機能

ア）州単位で民兵を保有・維持

→国家の常備軍の強圧的な行動の抑制

イ）反乱運動の抑制

→警察権力の主翼形成

2節　合衆国憲法

a.米合衆国憲法修正第2条
　→人民の銃保持・携帯の権利保障

b.有害な規定:犯罪や事故の原因
　→イギリス植民地時代の歴史・習慣
　　↓
　　影響

c.銃反対論者が憲法修正を希望

3節　米国に関する移民の考え

米国民は自力本願で自己防衛
　ゴーゲッターが銃社会形成の原動力

ゴーゲッター：やり手・精力家
→野原での生活の必要性・インディアンの脅威
友達の復讐・家畜の死守・財産保守の強靭な意志

射撃動作が早い拳銃が高く評価
　→銃は米国の家庭に浸透

2章　銃乱射事件

a　1990年代半ば以降、文献・判例増大

b　日本人留学生射殺事件

c　フランス銃事件

d　学校での銃乱射事件

1節　日本人留学生射殺事件

a.1992年10月17日ルイジアナ州バトンルージュ市
　日本人留学生服部剛丈の事件

b.ハローウィンパーティで仮装して誤り居宅侵入
　服部：『Freeze』の言葉に構わず侵入
　ピアーズ：服部の侵入に驚愕し誤射

　ピアーズの誤射に群裁判所が無罪の判決

２節　フランス銃事件

1995年2月　北東ルーヴシエンヌの町
　少年アレクシス＝家族と隣人計6人殺害

1997年8月　長女ナイマ→弟を説得
　猟銃を使用→父親殺害

3節　学校銃乱射事件

1993年　ケンタッキー州グレイソン
　イーストカーター高校の教室
　16歳の少年→少女の頭部に1発発砲

1998年3月　アーカンソー州の北東部
　ジョーンズボローの町
　アンドリュー・ゴールデン　ミッチェル・ジョンソン
→教師1人、生徒4人殺害　生徒11人重傷

1999年4月　コロラド州デンバー南部リトルトン

　　コロンバイン高校の構内

　エリック・ハリス　ディラン・クレボルト

→教師1人、生徒11人殺害　生徒20人以上を負傷